

## 抄紙会社跡地の移り変わり



「東京盛閣図録」(明治 18 年) 国立国会図書館デジタルコレクションより



昭和 10 年頃



### 「洋紙發祥之地」記念碑

渋沢栄一の発議によって抄紙会社が創立されて以来、日本の洋紙業界に大きな影響を与えてきた王子製紙㈱の創立80周年を記念して、昭和28年（1953）王子工場の跡地に建立された。



紙の博物館

昭和 25 年（1950）、空襲で焼け残った王子製紙（株）王子工場の電気室を利用して創立した紙専門の博物館。和紙・洋紙の両面から、紙の産業や歴史、文化を展示している。平成 10 年（1998）に飛鳥山公園内に移転した。



※この変遷図は、以下の地図・図面類を参考に、主要な建築物のみを表記したイメージ図である。「内務省引継地図 0026 東京府下第九大区六小区武州豊嶋郡王子村四拾七番地 抄紙会社 (内題)」(東京大学史料編纂所所蔵)を変更し、「王子紙工櫻子工場平面圖 昭和9年(1934) (当館蔵)」を参考に作成した。現在の地図は「国土地理院地図製作王子町の地図加工」で作成した。



## 紙の博物館 で 洋紙発祥の地 を知る

## 抄紙会社

設立  
150年

しょう し がい しゃ

# 抄紙会社誕生と王子 ミニガイド

西洋式の技術を使って紙をつくる会社、「抄紙会社」（のちの王子製紙株王子工場）が明治6年（1873）に設立されてから150年が経ちます。

王子で開業した抄紙会社の工場は、王子の近代工業地化のさきがけとなり、日本の近代製紙業の原点となりました。

## 関連展示

## 抄紙会社開業

2022年9/17(土)～12/18(日)

抄紙会社 150 年

## —洋紙発祥の地・王子（仮）

2023年9/16(土)～12/17(日)



公益財団法人 紙の博物館

〒114-0002 東京都北区王子1-1-3(飛鳥山公園内)

TEL (03) 3916-2320 FAX (

<https://papermuseum.jp/>

しょうし がいしゃ

# 抄紙会社のあゆみを知る

(のちの王子製紙(株)王子工場)

## 渋沢栄一、実業家として最初の機械工業

抄紙会社は、「近代日本経済の父」といわれる実業家 渋沢栄一が、明治の豪商であった三井・小野・島田組に、共同事業を呼びかけて設立した会社です。

この会社は、官僚を辞して民間の実業家となつた後に、渋沢が初めて手がけた機械工業でした。

渋沢は、明治維新後の日本には、人々が知識を得られる新聞や書籍の普及が重要だと考え、日本に近代製紙業を興す必要性を説いたのです。

## 工場は、東京・王子に開業

王子は、明治時代の製紙業にとって最適な条件が揃っていました。

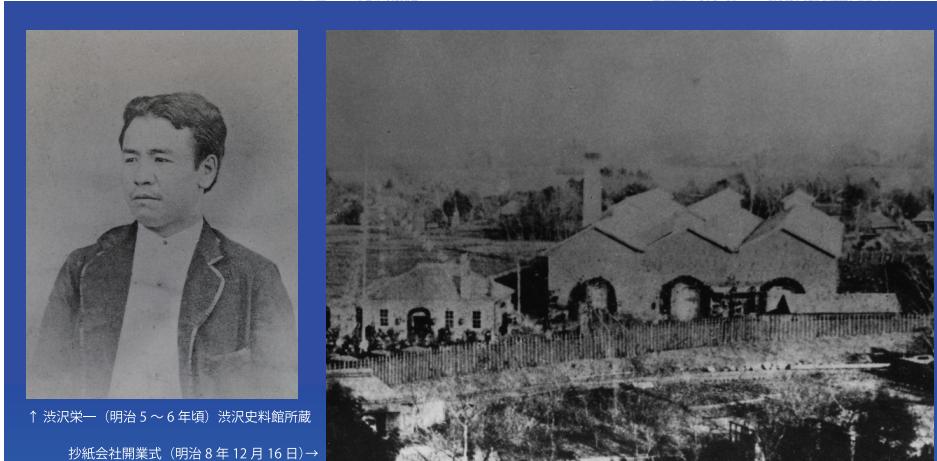
### 【工場敷地の条件】

- ・製紙のための水（千川用水）
- ・交通・運搬のための川（石神井川）
- ・原料のボロが入手しやすい都市部近郊

王子村が工場誘致に積極的だったことも、敷地決定の後押しをしました。

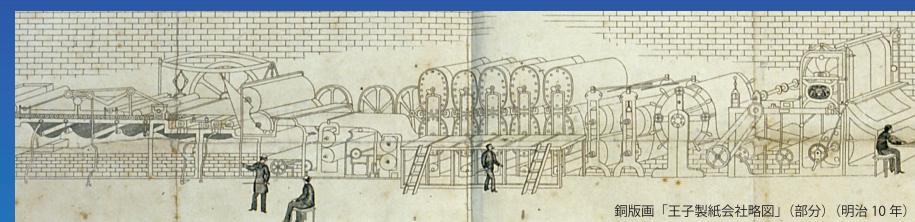
## 最新式工場、東京の名所に

海外の最新の設備や技術を取り入れて開業した抄紙会社は、新時代の到来を象徴する文明開化の名所としても人気を博し、錦絵にも描かれました。



↑ 渋沢栄一（明治5～6年頃）渋沢史料館所蔵

抄紙会社開業式（明治8年12月16日）→



銅版画「王子製紙会社略図」(部分) (明治10年)



錦絵「古今東京名所 飛鳥山公園地王子製紙会社」(明治16年)



戦前の王子製紙(株)王子工場（昭和10年頃）

## 王子製紙(株)王子工場、その後

抄紙会社はその後、2回社名を変更し、王子製紙(株)王子工場となりました。明治以来、工場を拡張し、印刷用紙、筆記用紙などを生産し続けましたが、昭和20年、空襲で大きな被害を受けて廃止されました。

工場跡地は、戦後、十條製紙(株)の社宅として活用され、現在は総合レジャー施設となっています。

※2022年現在、抄紙会社は、王子ホールディングス(株)、日本製紙(株)として存続している。

## 博物館に残るゆかりの品々

焼け残った王子工場の一部を使って開館したのが、紙の博物館（当初の名称は製紙記念館）です。抄紙会社創業期の貴重な資料を収蔵しています。

## 略年表

明治6年（1873）	抄紙会社、設立
渋沢栄一、設立と経営を主導	
明治8年（1875）	開業式（王子で工場が操業開始）
明治9年（1876）	明治天皇行幸
抄紙会社、社名を製紙会社へ変更	
明治23年（1890）	製紙会社王子工場内に、第二工場が操業
明治26年（1893）	製紙会社、社名を王子製紙(株)へ変更
王子製紙(株)王子工場となる	
渋沢栄一、取締役会長に就任（～明治31年）	
昭和8年（1933）	王子製紙(株)が、富士製紙(株)、樺太工業(株)を合併（紙生産量の84%を占める一大製紙会社の誕生）
大正元年（1912）	王子製紙(株)王子工場内に、第三工場が操業
昭和20年（1945）	王子製紙(株)王子工場、空襲により被害
翌年、王子工場の復旧を断念	
昭和24年（1949）	王子製紙(株)が過度経済力集中排除法により苦小牧製紙(株)、十條製紙(株)、本州製紙(株)の3社に分割
王子工場跡地は、十條製紙(株)の社宅用地となる	
昭和25年（1950）	王子工場跡地に、製紙記念館（現紙の博物館）開館
昭和28年（1953）	同跡地に、「洋紙発祥之地」記念碑建立